

(コラム)「日越防衛装備品・技術移転協定」締結と知られざる日本製揚陸艇

2021年9月11日、岸防衛大臣はベトナムを訪問し、同国国防相ファン・ヴァン・ザン陸軍上将と会談し、日越防衛協力が「新たな段階」に入ったことを確認した。同日、山田滝雄在ベトナム大使とホアン・スアン・チェン国防次官が防衛装備品の輸出を可能とする「防衛装備品・技術移転協定」に署名し、即日発効した¹。我が国は、「防衛装備品・技術移転協定」をアメリカなど10か国と締結しており、ベトナムはインドネシアに続き11か国目の締結国となる²。

本協定の締結により、今後、日本からベトナムに対する具体的な装備移転実現のための協議が進展すると見込まれる。

2014年に防衛装備移転三原則が制定された以降、2020年にフィリピンへの警戒管制レーダーの移転が合意されたものの、移転の実現事例は未だ少ない³。ましてや、防衛装備移転三原則制定以前に他国軍に供する装備が日本企業から輸出された事例があった事実は、一般にはほとんど知られていないと言ってもよいだろう。

だが、過去、日本企業から他国軍に供する装備の輸出事例はいくつかある。本項では、1975年の南北ベトナム統一以前に南ベトナム海軍で使用された、知られざる日本製揚陸艇について紹介したい。

米国の対外軍事援助には、米国外において援助対象装備品を調達する域外調達(OSP)という枠組みがあり、草創期の海上自衛隊にもOSPによる援助が行われた⁴。海上自衛隊のOSP対象艦艇としては、初代「あきづき」、「てるづき」が最大であったが、この他に、石川島重工業が建造した6隻のLCU、日本鋼管鶴見造船所が建造した52隻のLCMがOSPを適用し海上自衛隊に供与されている⁵。

OSPは、米国予算によって行われる対象国への援助である。従って、原則的には米国政府と他国企業が直接契約し、完成後は米軍籍に編入された上で米軍

¹ 「日・ベトナム防衛装備品・技術移転協定の署名」外務省、令和3年9月13日、https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press3_000584.html、2021年10月14日アクセス。

² 令和3年9月10日現在の防衛装備品・技術移転協定の締結国は次のとおり。

アメリカ、イギリス、オーストラリア、フランス、イタリア、ドイツ、インド、フィリピン、マレーシア、インドネシア

³ 「防衛装備の海外移転の許可の状況に関する年次報告書 令和3年2月」経済産業省、2021年3月、https://www.meti.go.jp/policy/ampo/set_annualreport_210219.pdf、2021年10月14日アクセス。

⁴ 域外調達 OffShore Procurement

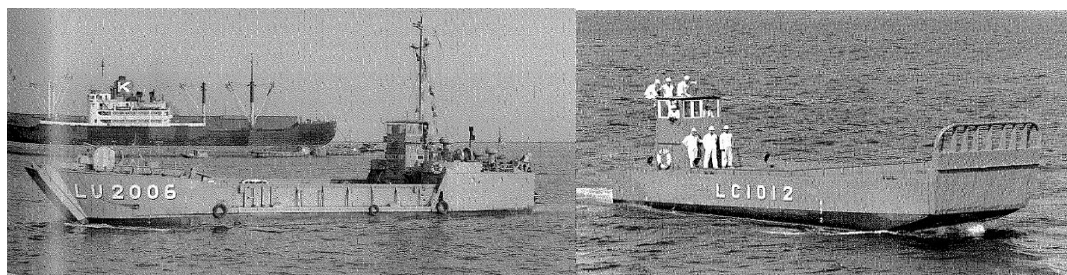
⁵ 「揚陸艇／輸送艇『2001号』型」『世界の艦船 海上自衛隊全艦艇史』増刊11月号(通巻869号)、2017年10月18日、47頁。

「揚陸艇／輸送艇『1001号』型」『海上自衛隊全艦艇史』48-50頁。

から援助対象国に引き渡される仕組みとなっていた⁶。日本企業が建造したOSP適用艦艇についても、設計から艤装まで日本政府の手で行われた「あきづき」、「てるづき」を除き、米国政府と日本企業が直接契約を締結していた。これらは完成後、日本企業から在日米海軍に引き渡され、米海軍籍に編入された上で米海軍から海上自衛隊を含むアジア地域の援助対象国海軍に供与されている⁷。

LCU (LCU-2006)

LCM (LCM-1012)



(出典：世界の艦船増刊 海上自衛隊全艦艇史)

OSPを適用し日本企業が建造したものとして、米海軍中型揚陸艇LCU-1446級14隻があり、石川島重工業（建造数9隻、うち6隻は前述のとおり海上自衛隊向け）、浦賀船渠（建造数5隻）の2社が受注している⁸。なお、LCU-1446級の要目は、満載排水量360t、速力8ノットであり、中戦車3両の搭載能力を持っていた⁹。

浦賀船渠が建造した5隻は1954年6月に在日米海軍に引き渡されており、このうち、LCU-1594、1595の2隻が1955年にインドシナ駐留フランス海軍に供与され、同年の南ベトナム独立に伴い翌1956年に南ベトナム

⁶ 第26回国会参議院内閣委員会議事録第21号（32.4.16）北島武雄政府委員答弁。

⁷ 艦船建造は契約から完成までの建造期間が数年と長期間を要するため、米国政府が直接契約を行うと米側の監督等の業務負荷が高く、艦船建造のみは援助対象国政府等を通じた間接契約を行っており、当時海上自衛隊最大の艦であった「あきづき」型建造時には9か国と同様の間接契約を実施していた。

「あきづき」型以外のOSP調達舟艇は、いずれも建造期間が数か月と短期間であり、当時の日本企業でも米国製の同型艇と同仕様での量産が容易な技術水準であったことから、従来のOSPの枠組みが適用されたものと考えられる。

同上。

⁸ 石川島播磨重工業株式会社「石川島重工業株式会社108年史」、1961年2月、528頁。

住友重機械工業株式会社横須賀造船所「浦賀・追浜百年の航跡：1897－1999」、1997年6月、資-57頁。

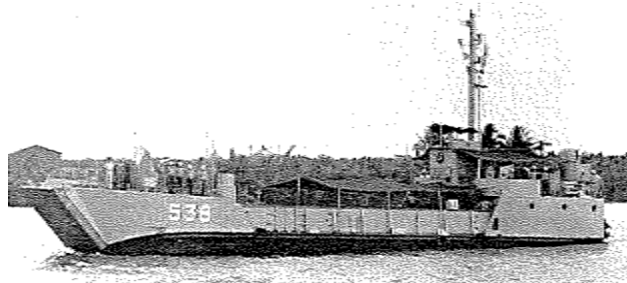
⁹ 「汎用揚陸艇 →LCU1446級（LCU-1446）」『世界の艦船 アメリカ揚陸艦史』増刊10月号（通巻934号）、2020年9月16日、145頁。

ム海軍に再供与されている¹⁰。

海上自衛隊向けLCUは長期間活躍し、6隻のうち最も長命であったLCU-2004は敷設船YAL-03に用途変更され、最終的に平成4年6月まで在籍した¹¹。

米海軍から南ベトナム海軍に供与されたLCUは、浦賀船渠製の2隻を含む19隻であった¹²。これらのLCUのうち、1975年の南北ベトナム統一後、7隻がベトナム海軍に編入されたが、これらの中に浦賀船渠製の2隻が含まれていたかは定かではない¹³。これらベトナム海軍に編入されたLCUは2020年にも5隻が残存してる¹⁴。

南ベトナム海軍のLCU（HQ-538、浦賀船渠製旧米LCU-1595）



（出典：Jane's Fighting Ship 1974-75）

前述の日越防衛相会談において、両大臣は「日越防衛装備品・技術移転協定」が署名に至ったことを歓迎し、今後、艦艇分野を含め、具体的な装備移転の実現に向けて協議を加速化していくことで一致した¹⁵。

我が国からベトナムに対する能力構築支援は、海上法執行能力分野が先行しており、既に巡視船艇用中古船舶7隻が引き渡されたほか、6隻の新造供与が進

¹⁰ NavSource Org, "LCU-1594" NavSource Online: Amphibious Photo Archiv, <http://www.navsource.org/archives/10/18/181594.htm>, 2021年10月14日アクセス。

NavSource Org, "LCU-1595" NavSource Online: Amphibious Photo Archiv, <http://www.navsource.org/archives/10/18/181595.htm>, 2021年10月14日アクセス。

¹¹ 海上自衛隊全艦艇史、47頁。

¹² 1956年から1971年にかけて米海軍から南ベトナム海軍に供与されたLCUは、浦賀船渠製を含むLCU-1446級と第2次世界大戦中に就役したLCU-501級の2タイプ、計19隻であった。

Jane's Fighting Ship 1974-75、595頁。

¹³ 南北統一後ベトナム海軍に編入されたLCUは、LCU-501級1隻、LCU-1446級6隻であったが、艇名は不詳である。

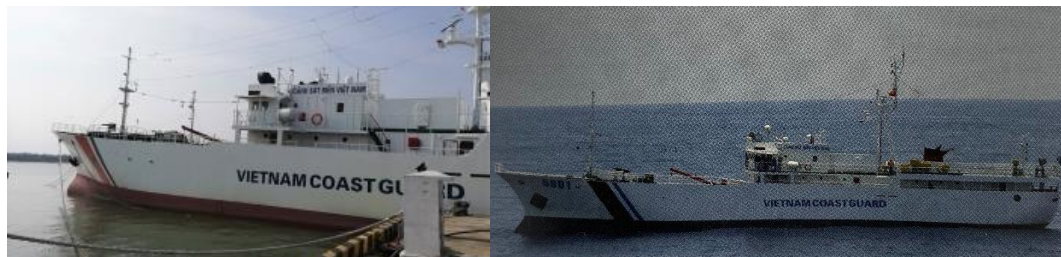
Jane's Fighting Ship 1979-80、772頁

¹⁴ Jane's Fighting Ship 2020-2021、952頁

¹⁵ 「日越防衛相会談（概要）」防衛省、令和3年9月11日、https://www.mod.go.jp/j/approach/exchange/area/2021/20210911_vnm-j.html、2021年10月14日アクセス。

められるなど、着実に実績を重ねている¹⁶。

ベトナムに供与された巡視船（CSB-6001、旧水産庁漁業取締船）



（出展：在ベトナム日本国大使館HP、Jane's Fighting Ship 2020-21）

防衛分野では、2012年以降、潜水医学等の能力構築支援による交流が図られているほか、海上自衛隊とベトナム海軍艦艇の相互寄港や親善訓練も行われている¹⁷。

今回の「防衛装備品・技術移転協定」の締結による防衛装備品移転の実現により、官民を通じた防衛分野における日本とベトナム間の交流の更なる深化が望まれる。

（幹部学校運用研究部ロジスティクス研究室 石原明德）

（本コラムに示された見解は、幹部学校における研究の一環として発表する執筆者個人のものであり、防衛省、海上自衛隊の見解を表すものではありません。）

¹⁶ 青井佳恵「日本の諸外国に対する海上法執行能力構築支援—巡視船艇及び自衛隊の装備品等の供与を中心に—」『レファレンス』831号、2020年4月20日、75頁。

¹⁷ 「実績」防衛省、https://www.mod.go.jp/j/approach/exchange/cap_build/vietnam.html、2021年10月14日アクセス。

「日越親善訓練について」海上幕僚監部、<https://www.mod.go.jp/msdf/release/202110/20211027.pdf>、2021年10月29日アクセス。

「海上自衛隊護衛艦『しらぬい』のハイフォンへの寄港について」在ベトナム日本国大使館、https://www.vn.emb-japan.go.jp/itpr_ja/20211024JMSDF_ja.html、2021年10月29日アクセス。

「ベトナム海軍寄港（H30.9.27-9.30）」海上自衛隊横須賀地方隊、<https://www.mod.go.jp/msdf/yokosuka/news/30/08.html>、2021年10月29日アクセス。